

令和元年6月10日 参議院決算委員会

○蓮舫君 立憲民主党の蓮舫です。

総理、日本は、一生懸命働いて給料をもらって、勤め上げて退職金をもらって、年金をいただいて、それでも六十五歳から三十年生きると二千万円ないと生活が行き詰まる、そんな国なんですか。

○内閣総理大臣(安倍晋三君) これは金融庁から発表された数字なんだろうと、こう思っておりますが、これは不正確であり、誤解を与えるものであったと、これは既に財務大臣からお話をさせていただいております。

○蓮舫君 不正確でも誤解もしていません。

こちら御覧ください。(資料提示) これは報告書です。

年金だけでは老後の資金を賄えない。金融庁の審議会ワーキング・グループから出されたもので、夫六十五歳、妻六十歳以上の無職世帯収入は九割以上を社会保障給付に頼っていますけれども、今、毎月五・五万円の赤字、そこを自分の金融資産で補填するには、二十年で千三百万、三十年で二千万必要。

麻生さん、これ何ですか。

○国務大臣(麻生太郎君) 今ほど言われました話というのは、少なくとも今、安倍総理の方からもお答えがございましたように、いろいろな高齢者の生活というのは極めて多様であって、それぞれの方が望ましいと考える生活水準の、働き方や希望、収入、資産の状況、これ当然のこと様々なんです、今ありました御指摘の報告書というのは、これは、更に豊かな老後を送るためには、個々人の置かれた状況に応じてより上手な資産形成ができるようにするというのも大切ではないかとの見方が述べられたものと理解をいたしておりますということを含めて考えたんだと申し上げております。

しかし、高齢者の家計については、貯蓄や退職金を活用しているということに触れることなく、家計調査の結果に基づく単純計算で、老後に月五万円、三十年で二千万円の赤字であるかのように表現したという点につきましては、これは国民の皆様にも誤解や不安を広げる不適切な表現であったと私どもは考えております。

公的年金については、老後の生活を支える柱なので、将来にわたり持続可能な制度を確保しております、さらに、医療、介護といった社会保障制度が全体として国民の高齢期に対する包括的なセーフティーネットとして機能もいたしております。

また、本年十月から、低年金の方へ年間最大六万円の年金生活者支給給付金を支給し、セーフティーネットにおいて更に充実させていくことにいたしておりますというので、我々は、人生百年時代において誰もが安心して暮らすことのできる社会を……

○委員長(石井みどり君) 御答弁は簡潔に願います。

○国務大臣(麻生太郎君) 実現するために、老後生活を支える柱である年金生計を始めとして、働き方や、改革や、予防、健康づくりなどを丁寧に議論してまいりたいと考えております。

○蓮舫君 今、麻生大臣は、あたかも赤字だと表現したのは不適切だった、豊かな生活を送るための二十五万円に五万円足りない。これ前回の会見でも言っているんですけど、この認識は変わっていないんですね。

○国務大臣(麻生太郎君) 一番冒頭に申し上げたと思いますが、各年金生活者、老齢を送っておられる方の生活者は非常にいろいろな条件がありますので、一概に、一律にこの型ってワンパターン化するのには不可能だと思っております。

○蓮舫君 この報告書読みました。

○国務大臣(麻生太郎君) 冒頭の部分、一部目を通させていただきました。全体を読んでいるわけではありません。

○蓮舫君 これだけ国民の間で怒りが蔓延して大問題になっている。読んだら五分で終わる報告書を読んでいない。

このどこに、どこに豊かな暮らしのために五万円足りないって書いてありますか。

○国務大臣(麻生太郎君) 私どもが最初から申し上げておりますのは、これは、いわゆる年金のこの勉強するグループで出されてきたものを上げられた、採用だと私ども理解しておりますので、そういった意味では、私どもは、この上げられたすぐ後に、今の中で、申し上げているようないろいろな表現の中にある中で、少なくともそういったものを目的としてやろうとしているということをお願いしております。

○蓮舫君 間違っています、二つの意味で。一つ、勉強するためのグループが話したものでなくて、麻生大臣が諮問をした審議会のワーキング・グループですよ。そして、この報告書には、豊かな老後のために二十五万円要るから五万円足りないとは一行も書いていません。その問題認識が甘い。そんないいかげんなことで不適切だと国民に言うのは、私はその方が不適切だと思います。

そもそも、そもそも、麻生大臣にお伺いします、赤字との表現が不適切、それで国民は納得すると思いますか。

○国務大臣(麻生太郎君) いろいろな方からも私どもに御質問をいただいたことは事実でありますけれども、その中に、その点に関して不適切だという御意見に関しては、そうではないんだということで丁寧に御説明をさせていただき、御理解いただいた方も多くいらっしゃいます。

○蓮舫君 いや、不適切で御理解いただいた方が多くいるというのは、麻生さんの周りというのは随分とそんたくされる方しかいないんじゃないんですか。

この報告書で国民が怒っているのは、百年安心がうそだったと、自分で二千万円ためろってどういうことかという憤りですよ。

報告書を簡単にまとめると、高齢世帯を含む各世代の収入は全体的に低下傾向、公的年金の水準は今後調整される、税、保険料の負担は年々増加、少子高齢化で今後もこの傾向は一層強まる、高齢夫婦無職世帯の平均的な姿では毎月の赤字額は五・五万円、これは自身が保有する金融資産で補填、老後の生活で足らざる部分は当然金融資産で取り崩していくことになる。

豊かな生活のためではなく、足らざる部分のためにもっと働け、節約しろ、ためろ。公助から自助に、総理、いつ転換したんですか。

○内閣総理大臣(安倍晋三君) 先ほど麻生大臣は、老後に月五万円、三十年で二千万円の赤字であるかのように表現した点については、国民の皆様に誤解や不安を広げる不適切な表現であったと考えているというふうに述べたはずでございまして、先ほどもそのように述べておられたと、こう思います。事実、そのように書いて、そのような誤解を与えたと思います。

そこで、そこでですね、そこで、百年安心ということについて申し上げますと、これは、高齢期の生活は多様であって、それぞれの方が望ましいと考える生活水準や働き方の希望、収入、資産の状況なども様々であります。現在でも、国民の老後所得は、公的年金を中心としつつですね、しつつ、稼働所得、そして仕送り、企業年金、個人年金、財産所得などが組み合わさっているのが実態であると、こう我々は理解しております。

その上でですね、この上において、年金、年金百年安心がうそであったという御指摘でございしますが、そうではないということをお知らせさせておきたいと、これ重要な点でありますから申し上げたいと思いますが、この国民の老後所得の中心となる公的年金制度については、将来世代の負担を過重にしないために、保険料水準を固定した上で、長期的な給付と負担の均衡を図るマクロ経済スライドにより一定の給付水準を確保することを前提に、これ持続可能な制度に改めたものであります。これは平成十六年の大改革でありまして、マクロ経済スライドを導入する。つまり、平均余命が長くなれば当然給付が増えていく。一方、同時に、被保険者の数がどうか、これ減っていけば当然これは収入も減っていく。そのバランスが大切であって、それがマクロ経済スライドであります。(発言する者あり) ここからが大切なんですよ。

そこで、アベノミクスの進展によってもはやデフレではないという状況を反映し、今年度の年金は〇・一%の……(発言する者あり)

○委員長(石井みどり君) 御答弁は簡潔に願います。

○内閣総理大臣(安倍晋三君) これですね、年金については、ちゃんと説明しなければ不安をおおるだけの結果になっているんですよ。こうやって説明させないという態度はおかしいと思いますよ。(発言する者あり)

○委員長(石井みどり君) 速記を止めてください。

〔速記中止〕

○委員長(石井みどり君) 速記を起こしてください。

○内閣総理大臣(安倍晋三君) あっ、今止まっていたんですか。今、今まで止まっていたの。(発言する者あり) いや、これはですね、いや、しかし、百年安心が、百年安心ではないということをおっしゃったわけですから、政府としては……(発言する者あり)

○委員長(石井みどり君) 速記を止めてください。

〔速記中止〕

○委員長(石井みどり君) 速記を起こしてください。

安倍内閣総理大臣。(発言する者あり) いや、聞いていただかないと。安倍内閣総理大臣。

○内閣総理大臣(安倍晋三君) いや、今委員長から、委員長から……(発言する者あり)

○委員長（石井みどり君） 静粛にしてください。

○内閣総理大臣（安倍晋三君） 皆さんね、年金というのは制度の説明ですから、少しは時間が掛かるんですよ。スローガンを言い合うことではないんですよ。百年安心ではないという非常に重要な点を指摘されましたから、それに対して反論するのはですね、不安をあおらないためにもこれ大切ではないでしょうか。

そこで、簡単にお答えをいたします。簡単にいたします。

アベノミクスの進展によってもはやデフレではないという状況ができたことを反映して、今年度の年金は〇・一%の増額改定となりました。これはですね、これは、未調整だった分も含めて……（発言する者あり）

○委員長（石井みどり君） 発言者以外は御静粛をお願いします。

○内閣総理大臣（安倍晋三君） 将来世代のためのマクロ経済スライド調整を行った上で、なお現在の受給額がプラスの改定になったものであり……（発言する者あり）これ、皆さんにとって都合が悪い説明だと遮るんですか、皆さんにとって都合の悪い説明だと遮るの。

これはですね……（発言する者あり）いいですか、いいですか、私が答えますから……（発言する者あり）いいですか、これは、これまで未調整だった分も含めて、将来世代のためのマクロ経済スライド調整を行った上で、なお現在の受給額、プラスの改定となったものでありまして、現在の受給者、将来世代の双方にとってプラスとなるものであります。

○委員長（石井みどり君） 御答弁は簡潔に願います。

○内閣総理大臣（安倍晋三君） 今、正確に制度についてですね……（発言する者あり）説明させていただいているんですが、止めるよとかやめるよとか、大きな声を出すのは皆さんやめましょうよ。

なお、デフレが、なおですね……（発言する者あり）

○委員長（石井みどり君） 御答弁は簡潔に願います。

○内閣総理大臣（安倍晋三君） いや、済みません、委員長ですね、委員長、ああいう大きな声を出されていると……（発言する者あり）いや、私が答弁し始めて十秒ぐらいたった段階でそうやって大きな声を出されたら説明できないじゃないですか。これ皆さんにとって都合が悪い答弁だからですか。（発言する者あり）じゃ、よろしいですか。

つまり、マクロ経済スライドによって、マクロ経済スライドによって百年安心という、そういう年金制度ができたということなんです。それ給付、いいですか、これ給付と負担のバランスですから、それを調整するものができた、そして今年度においてはプラス改正ができた、かつマクロ経済スライドも発動された、マクロ経済スライドが発動されたということが大きなポイントであるということは、これ、多くの方々が御理解いただいているので申し上げさせていただきたいと、こう考えております。

○蓮舫君 総理の説明がいかにも言い訳じみているというものがよく分かりました。

金融庁に伺います。

これは、五月二十二日に公表された報告書案、二つあるんですね。二十二日に報告、六月三日に報告。公的年金の水準が当面低下する、年金の給付水準が今までと同等のものであると期待することは難しい、今後は公的年金だけでは満足な生活水準に届かない可能性がある。これ、僅か十日で全て削除されている。なぜですか。

○政府参考人（三井秀範君） お答え申し上げます。

先生御指摘の五月二十二日の報告書、これはその報告書の一回目のドラフティングの会議でございます。これは、それまでの審議において各委員の皆様方がおっしゃったことを事務局の責任で一つのたたき台としてお示ししたものでございます。

また、その会議の直前あるいは直後、あるいは会議の場においても、委員の方々から表現ぶり、内容に至って様々な御意見を頂戴しまして、その結果、できるだけこの部分、客観的な形に修正することが望ましいということで、六月三日の報告書においてはより客観的な表現ぶりに改めさせていただいたものを事務局の案として提出させていただいたもので、また、それが審議会の場では、ワーキング・グループの場では委員の方々の御了解をいただいたものでございます。

○蓮舫君 どこが客観的ですか。きれいに年金が下がると書いてあるところ全部削除しているんです。

しかも、審議会の議事録見ると、厚労省は、今後、実収入の社会保障給付は低下する、下がるとはっきり説明しています。委員の中からは、はっきり言って削減、低下するというのが事実、はっきり言うべきは言わなきゃいけない、こういう意見がずうっと連なっているんですよ。

金融庁は、年金が下がるという認識で審議会を進めたでいいですね。

○政府参考人（三井秀範君） お答え申し上げます。

金融庁におきまして金融審議会の下に置かれましたこのワーキング・グループでございますが、この審議会のミッション、年金給付が上がるか下がるか、公的年金の在り方について審議を頂戴したものではありませんで、むしろ、様々、長寿化であるとか人口構成であるとか、あるいは金融資産の状況など客観的な状況を踏まえまして、資産形成、とりわけ中心としては民間金融の話を中心に資産形成あるいは管理ということで、金融としてどのような対応が必要なのか、あるいは望ましいのかということについて御議論いただいたというものでございます。

したがって、その公的年金について上がるのか下がるのかということも前提に議論されたのかという御質問でございますが、この審議会では、それについて何らかの予見を持って議論した、あるいはその方向性を示したというものではございません。

○蓮舫君 これ使われた資料ですけれども、審議会では、年金給付がこれまでどんどん下がって年齢はどんどん上がっていく、この資料を使って審議している。年金が下がるという前提で審議をしているんじゃないですか。年金を審議したんじゃない。でも、結果として、たしろ、もっと働け、そして二千万円足りない具体的な数字も出している。とても百年安心じゃない。

ちょっと確認しますが、金融庁としては、この審議会の中で、六十五歳、六十歳の無職の高齢世帯が今後三十年生きるのに二千万円必要としましたけれども、ここに介護費用あるいはそれに伴うリフォーム、入っていますか。

○政府参考人（三井秀範君） 済みません、まず一つ目の御質問でございます、資料をいろいろ出していたという点についてでございます。

おっしゃるとおり、その様々な計数を提出しております、長寿化あるいはその試算の内訳も提出しております。ただこれは、年金の在り方というよりは、金融面についての御議論をいただく材料でございます。

それから、この内訳でございますが、これは家計調査の二〇一七年統計の数字を出したものでございまして、これについて、どのような方向性があるのかという、そういうことを議論するためというよりは、あるその既存の資料をグラフの形で出ささせていただいたというものでございます。

○蓮舫君 私が聞いているのは、介護費用、リフォーム代が入っていますかという極めてシンプルな質問です。

○政府参考人（三井秀範君） 先ほど申しましたとおり……（発言する者あり）

○委員長（石井みどり君） 発言者以外、御静粛に願います。

○政府参考人（三井秀範君） 平均、トータル平均としては含まれ得るということでございます。個別の用途についての着目ということではなくて、全体の平均として含まれ得るということでございます。

○蓮舫君 二千万円に含まれますか。報告書にそう書いていますか。

○政府参考人（三井秀範君） お答え申し上げます。

報告書においては、その二千万円の内訳について議論しておるわけではございません。資料の中で、それを、収支、収入と支出を見ると五万円の赤字になると、これを資産から補うということで、その部分が不適切だったというふうにサポートする事務方としては反省しているところでございますが、その内訳について、先生の御指摘のようなその分析をこの審議会でしたわけではございません。

○蓮舫君 十七ページに明確に書いてあります。これ、二千万円足りないという記述の後に、ここには、例えば老人ホームなどの介護費用、住宅リフォーム費用などを含んでいないことに留意が必要である。そして、わざわざ、ライフステージに応じて発生する費用等の例として、介護が必要だと一千万円最大で掛かる、リフォームが必要だと四百六十五万円掛かると明快に書いてある。

三千万、四千万、どんどん膨らんでいく、そんな話をされているんですよ。何で違うこと答えるんですか。

○政府参考人（三井秀範君） 説明が稚拙で申し訳ございません。

家計調査の数字でございますので、この六十五歳、六十歳以上の方々の全体が含まれておりまして、当然、その集団の中には、もし介護費用などを払っていらっしゃる方はその家計の調査において答えていらっしゃいます。平均でございますので、個別の用途で見ますと、それを更に一人において四百万とか多額のお金を出すことがあり得るという意味では、ここの文章、これが平均的に全部含まれているというのを見るのはいささか無理があるということで、そういう場合があり得るということでございます。

あくまで、それは客観的情勢として、報告書の中で何度も繰り返していますが、個別性が大変多くて、人それぞれ違うことを自

分自身で見える化して対応を考えるとということが強調されるものの材料の一つとして掲げさせていただいております。

○**蓮舫君** それが、人それぞれ見える化をして、足らざる部分の二千万円を何とか貯蓄をしろとして投資を勧めている報告書なんです。

麻生大臣は閣議後の会見で、二千万円という話、単純な試算だ、そうじゃない方もいっぱいいますので、意味が取り違えられるような書き方になっているのは不適切だったと思います。

まるで受け手側が間違っている、自分は間違っていないという言いぶりなんですけど、じゃ、二千万円ためなくてもいい豊かな人はどれぐらいいるんですか、いっぱいいると言いました。

○**国務大臣（麻生太郎君）** 少なくとも我々はその正確な資料というものを持っているわけではありません、ここの資料ありませんので。そういった意味では、正確な資料を、どれぐらいいるのかという数字を、何千何百何十何万とお答えする数字を持っているわけではありませんが、少なくとも、その種の方には影響されない方も多く、私どもも、生活水準のかなり低い筑豊というところにおりますが、いろんな方に、いろんな方って正確じゃありません、数名伺いましたけど、いや、うちは関係ないわいという方はかなりいらっしゃったという事実を申し上げます。

○**蓮舫君** 大臣、報告書も添付された資料も見えていないというのは問題ですよ。正確な資料、この審議会に提示されています。

二千万円以上持っている方が、六十五歳世帯主で二人以上、四割。つまり六割は二千万円ないんです。それよりも年金が、あっ、貯金がないという方もどんどん増えている。実際に、六十代で無年金の方は二〇%を超えている、無貯金の方。七十代以上だと二九%無貯金の方がいる。

この方たちは、この報告書を見ると、自己責任で何とかしろということなんですけど、金融担当大臣。

○**政府参考人（三井秀範君）** 済みません、この審議会場で様々な民間議員の方、その他の方々が資料を提出していただきました。その中に確かに分布の資料もございました。

必ずしも今のこの報告書に添付させていただいたものと全くベースが一緒ではないものですから、それをもって全体のあるべき姿という議論ではないということと、それからもう一つ、繰り返しになって恐縮でございますが、一人一人の状況が違うので、この民間の金融あるいは資産形成という考え方からすると、まず、個々の置かれた状況が違うので、それをまずそれぞれ見える化する、それにおいては、自分自身、あるいはその専門家、周りの方々の助力を得て行うということを強調しているということでございます。

○**蓮舫君** そもそも、いわゆる平均寿命が延びるとか長寿化というのは、昨日今日分かったことじゃないんです。

二〇〇四年度、年金制度改革、これ百年安心と当時の小泉総理が言っていました。今回の金融庁推計による将来の長寿化の姿を比べてみますと、誤差の範囲です、長寿化の年齢。しかも、金融庁が、今六十歳の人の四分の一が九十五歳まで生きると試算していますが、二〇〇五年時の推計を使って試算しても、ほぼ同じ四分の一が九十五歳まで生きるとなっている。つまり、二〇〇四年時に分かっていたことが、今、人生百歳、百年だから、さも今分かったかのように、自分で二千万ためろという非常に無責任な、国民を欺いた内容になっているから私はこうやって問わせていただいているんです。

総理、いかがですか。

○**内閣総理大臣（安倍晋三君）** いや、先ほど、百年安心というのがうそではないかという趣旨の質問をされましたから、そうではないという答えをさせていただきました。それについては御理解いただけたんだろうと思います。

言わば、保険料水準をですね、保険料水準を固定し、平成十六年のあの改革とは何だったか。保険料水準を固定し、そして、言わば五割、現役時代の約五割、モデル世帯においてですかね、五割の収入を確保するという中において、しかし、それを両方とも決めているんですから、そのためには調整をしなければいけないということで、平均寿命と、そして被保険者の数、増減を加味したマクロ経済スライドを導入したわけでありまして。マクロ経済スライドが導入されて、これ稼働することによって、将来世代のこれは年金においても給付と負担が均衡が取れるというものであります。

それ取れていないということであれば、確かにそれは将来、百年安心の前提条件が崩れるということでありまして、先ほど答弁させていただいたのは、それが今まさに、これ、今年度においては年金は〇・一%の増額改定となりましたが、これプラスになりました。かつ、マクロ経済スライドもこれ発動されました。そして、未調整だった分もこれは含めて発動されたわけでありまして。それでもなおかつ受給額がプラスになった、それは、現在の受給者、将来世代の双方にとってプラスであるものと考えております。

なお、これデフレが深刻した民主党政権時代には、年金水準をプラスにすることはできなかったのをごさいます。あと、あとです、あと……（発言する者あり）いや、こういうことを言うとう聞きたくないかもしれませんが、大切なことではありますが……（発言する者あり）じゃ、どうぞと言われましたからお答えをさせていただきますが、積立金におきましても六年間で四十四兆円、運用益は出ています。これはまた申し上げたくないんですが、民主党政権時代の三年間の十倍これ増えて、今、横の方が怒っておられますが、これは事実でありますから皆さんも向き合った方がいいと思います。

これを踏まえれば、公的年金の信頼性はより強固なものとなったと我々は考えております。

**○蓮舫君** 安倍政権になって、年金の原資であるGPIFのお金を株式に投資する割合を五割まで増やして、直近では十五兆赤字が出ています。いいときもあれば悪いときもある、でも、悪いときがあつて次にいいときが来るか分からないから安定運用しろというのを私たちはずっとと言ってきたけど、安倍さんはそれを全く聞く耳を持たない。

そして、今、経済が上向かないのは、GDPの六割を占める個人消費の冷え込みです。安倍総理は、デフレだから、だから消費が動かない。その見方もあるかもしれませんが、私たちは、将来の不安が取り除かれなから消費が冷え込んでいる、だから年金、介護、医療、そして育児もしっかりしなければいけないと言っているんですが、この報告書は、政府がこの不安を取り除くどころか、今後足りなくなるからもっと働け、高齢者も、そしてもっとためろ、そして自分で節約をしろ、むしろ消費を冷え込ませる、そういう内容になっていると思うんですが、撤回された方がいいんじゃないですか。

**○内閣総理大臣（安倍晋三君）** 撤回するかどうかは役所から答えさせていただきますが、言わばフォワードルッキングの運用、GPIFの運用では、確かに一時的には十五兆円の損益が出たわけですが、この六年間通算では四十四兆円のプラスが出ていて、民主党政権の十倍の運用益が出ているわけでありです。言わばそういう政策を取っているときにはそういう運用方法を取るの、事実プラスになっているんですから、それを批判するのはどうかと、こう思うわけですが。

いずれにいたしましても、この積立金も運用は大きくプラスになっておりますし、マクロ経済スライドも発動されましたから、言わば百年安心ということが確保された。その上で、撤回するかどうかは担当である三井局長から答弁させたいと思います。

**○蓮舫君** そもそも年金不信というのは生んではいけないと思うんですが、これ発端になったのは、第一次安倍内閣のときに長妻さんが明らかにした消えた年金五千万件です。あのとき安倍総理は、この消えた年金問題について何を言われたか覚えてますか。

**○委員長（石井みどり君）** 安倍内閣総理大臣、指名後に御発言願います。

**○内閣総理大臣（安倍晋三君）** はい。

消えた年金のときには五千万件と言われておりますので、この突合について、最後のお一人まで突合すべく努力をしていくというお話をさせていただきました。

**○蓮舫君** 私の内閣で全て解決、最後のお一人まで全てお支払をしていくと何度も言いました。この場で何度も聞きました。最後の一人までお支払いしましたか。

**○内閣総理大臣（安倍晋三君）** それは、残念ながら必ずしも全て突合できたわけではございませんから、そのことについては申し訳ないという気持ちでございます。

**○蓮舫君** あれから十二年たちます。突合された記録は五千万件のうち二千万件のみです。亡くなった方がもう七百万の記録があります。無年金で亡くなっている方もいます。まだ解明も突合もされていない記録は千九百万件残っています。

申し訳なく思う。これを解明する第三者委員会ももう解散しているんですよ。やる気は本当にあるんですか。口約束だけだったじゃないですか。

**○国務大臣（根本匠君）** 私、担当大臣なので申し上げたいと思います。

年金記録問題については、これまで五千万件の記録のうち約三千二百万件以上を解明いたし……（発言する者あり）言いました。

そしてさらに、未統合記録の解明に向けて様々な取組を続けています。

ねんきんネットやねんきん定期便などを活用した記録確認により御本人からの申出を促す、年金受給資格期間を十年に短縮したことを踏まえて、十年に満たない方に個別に記録確認の呼びかけを実施する、過去に名寄せ特別便等を送付したものの御本人から回答を得られていない方に対し個別にお知らせを送付する、これによって昨年一年間で約四十一万件の記録が新たに解明をいたしました。

国民の皆様へ御協力をいただきながら、一人でも多くの方の記録の回復につなげていくとともに、正確な年金記録の管理に努め

ていきたいと思えます。

○蓮舫君 安倍総理は自分に都合の悪いことは答えないで、出てきた大臣は何言っているか分からない答弁繰り返す、こういうのやめていただきたいと思えます。

ところで、年金が百年本当に安心かどうかというのは、五年に一回の財政検証をしっかりと審議することが大事だと思います。十年前は二月の二十三日、五年前は六月の三日に公表されました。今年、これなぜまだ未公表なんですか。

○国務大臣（根本匠君） 財政検証は現在作業中であり、必要な検証作業が終わり次第公表することを予定しております。

○蓮舫君 いや、これ驚いたことに、野党合同ヒアリングで数理課長がはっきり言いました、実はデータは全部そろっていますと。つまり、いつでも出せる状況なんですよ。これ、誰が止めているんですか。大臣ですか。

○政府参考人（木下賢志君） お答えいたします。

財政検証でございますけれども、今大臣申し上げましたとおり、現在作業中でございます。

これは止めているということではなくて、前回、確かに二十六年の財政検証は六月三日公表いたしました。その後、今回の人生百年ですとかあるいは働き方改革ですとか、そういった問題の中で、在老の問題ですとか繰下げの問題ですとか、様々な御指摘ございました。そういったことも含めまして、オプション試算として、前回もそうございましたけれども、様々なケースを検証した上で所得代替率がどうなるかということは今作業しているところでございます。

○蓮舫君 データそろっているのに、出さない理由を話すのやめてくださいよ。早く出さないと国会で審議できない。まさか参議院選挙後に出すということはないですよ。総理、出していただけると約束してください。

○内閣総理大臣（安倍晋三君） これはもう政治的に出すか出さないかということではなくて、現在、根本大臣の監督の下に厚生労働省においてしっかりと作業が進められているものと認識をしております。

先ほど申し上げましたように、この百年安心というのはまさにマクロ経済スライドが発動されるということでございますが、このマクロ経済スライドについては、平成二十八年までは〇・九だったものが三十一年度においては〇・二まで下がった。〇・二まで下がったということは、被保険者、つまり働き始めた人が増えたことによって保険料収入が上がって、〇・九が〇・二に下がったわけでございます。こういうものも含めてプラス改定が可能になったということでございますので、年金財政を支える経済基盤はより確かなものとなったということは確認しております。

○蓮舫君 全く誠実に答えていただけないことに本当に憤りを感じるんですが。

これ、今日、ちょっと話は変わりますが、相当報道されています。イージス・アショア、実地調査をせずに作った報告書に間違いが九か所も発覚し、配備適地とされる秋田での八日の説明会で防衛省の職員が居眠りをして市民の怒りを買った、このことは総理、御存じですか。

○国務大臣（岩屋毅君） 説明会においてですね、説明会においてそういうことがあったことは事実でございます、誠に緊張感を欠いた不適切な行為であったと思えます。二度とこのようなことが起こらないように指示を徹底してまいりたいと思っております。

○蓮舫君 年金は公助より自助だといって一人一人二千万ためろと言いながら、イージス・アショア関連施設含めて二基六千億とも言われる防衛品の爆買いなんですよ。その実地調査をしないデータに誤りがあって、市民に説明するところでは職員が居眠り。余りにも緊張感ないんですが。

これは二〇一二年度を基準に各項目ごとの変化額を累計した額なんですが、防衛関係費が出っ張った分、文教・科学振興費がへっこんでいる。やっぱり、この防衛関連予算の爆買い、そろそろ見直すべきだと思うし、教育や科学の振興にしっかり向けていくべきだと思うんですが、社会保障は個人責任と言って、爆買いの部分では職員が居眠りをして、そして文教科学予算をこれだけ下げてきて、予算の使い方が余りにも違う。

そして、予算委員会を全く開かないという安倍内閣の国会に対する後ろ向きな姿勢には強く抗議を申し上げて、終わらせていただきたいと思えます。